舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2	2017年度)	授業科目	システム制御工学		
科目基礎情報								
科目番号	0115			科目区分	専門 / 必	修		
授業形態	授業			単位の種別と単位数	数 学修単位	学修単位: 2		
開設学科	総合システム工学専攻			対象学年	専1	専1		
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	川田昌克「MATLAB/Simulinkと実機で学ぶ制御工学―PID制御から現代制御まで―」(TechShare)							
担当教員	川田昌克							
到達目標								

- アイードバック制御の概念と構成要素を説明できる。 MATLAB/Simulinkの使用方法を理解する。 信号の離散化を行うことができる。 PID制御の各要素の役割を説明できる。 ブロック線図を用いて制御系を表現できる。 制御系の過渡特性・定常特性について説明できる。 システムのモデリングを行うことができる。 極配置法によりコントローラを設計できる。 最適レギュレータによりコントローラ設計できる。 ① 2 3

- 4 5 6 7 8 9

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	フィードバック制御の概念と構成 要素を十分に説明できる。	フィードバック制御の概念と構成 要素を説明できる。	フィードバック制御の概念と構成 要素を説明できない。
評価項目2	MATLAB/Simulinkを十分に使用することができる。	MATLAB/Simulinkを使用することができる。	MATLAB/Simulinkを使用することができない。
評価項目3	信号の離散化を適切に行うことが できる。	信号の離散化を行うことができる。	信号の離散化を行うことができない。
評価項目4	PID制御の各要素の役割を十分に説明できる。	PID制御の各要素の役割を説明できる。	PID制御の各要素の役割を説明できない。
評価項目5	ブロック線図を用いて制御系を適 切に表現できる。	ブロック線図を用いて制御系を表 現できる。	ブロック線図を用いて制御系を表 現できない。
評価項目6	制御系の過渡特性・定常特性につ いて十分に説明できる。	制御系の過渡特性・定常特性について説明できる。	制御系の過渡特性・定常特性について説明できない。
評価項目7	システムのモデリングを適切に行 うことができる。	システムのモデリングを行うこと ができる。	システムのモデリングを行うこと ができない。
評価項目8		極配置法によりコントローラを設計できる。	極配置法によりコントローラを設 計できない。
評価項目9	最適レギュレータにより適切にコ ントローラ設計できる。	最適レギュレータによりコントロ ーラ設計できる。	最適レギュレータによりコントロ ーラ設計できない。

学科の到達目標項目との関係

(B)

教育方法等

家電製品, 化学プラント, 自動車, ロボットなど様々なシステムを設計者の思い通りに動かすためには, 対象とするシステムの特性を把握し, コントローラを設計する必要がある。このような役割を担うのが「制御工学」である。本科目では, いくつかの具体的事例を通じ, 対象とするシステムを制御するための一連の流れを修得してもらうことを目的とする。

概要

90. In order to move various systems, satisfactorily such as home electronics, equipment in chemical plants, a car, and a robot, it is necessary to grasp the characteristic of the target system and to design a controller. "Control engineering" fulfills such a role. This subject aims at achieving a series of flows in order to control the target system, this series is obtained through the study of examples.

黒板,プロジェクタを使用し,配布するプリントの内容を詳しく説明する。また,講義だけでなく,LEGO MINDSTORMS NXT,MATLAB/Simulinkを利用した実習を伴う。 講義内容の理解を深めるため,適宜,レボート課題を与え,提出を求める。

授業の進め方・方法

電卓を持参すること。 本科目は、授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。そのため、適宜、授業外の自己学習のためのレポート課題を課す。 レポートは必ず授業開始時に提出すること。特別な事情がない限り、授業開始時以外にレポートは 受け取らない。

【定期試験の実施方法】 定期試験を行う。時間は105分とする。 持ち込みは電卓を可とする。

注意点

【成績の評価方法・評価基準】 定期試験結果(70%)と自己学習としてのレポート課題の評価(30%)の合計をもって総合成績とする。 到達目標に基づき,各項目の理解の到達度を評価基準とする。

【学生へのメッセージ】 我々の回りある家電製品,化学プラント,自動車からロボットなどには,様々な制御技術が利用されている。これらシステムを思い通りに制御するには,ただ単に「もの」を作るだけではなく,入出力信号の処理,モデリングからコントローラ設計までの制御系解析/設計を行う必要がある。本講義により実システムを制御するためのアプローチを習得し てもらいたい。

研究室 A棟2階(A-202) 内線電話 8959

Amaiguru et as in (マットフ カけのに亦ラスマレ)

		e-mail:	kawataアットマー	クmaizuru-ct.ac.j	p(アットマークに	t@(三変えること。)	<u> </u>		
授業計画	1	1	I			l				
		週	授業内容				ごとの到達目標			
		1週	シラバス内容の説明	月,回転型倒立振 ³	子の製作	① る。	フィードバック	ク制御の概念と	構成要素を説明でき	
		2週	RoTH (Run on Ta	rget Hardware) (の使用方法	2	MATLAB/Sim	ulinkの使用方法	とを理解する。	
	1stQ	3週	不完全微分のディ	ジタル実装		2 3		ulinkの使用方法 を行うことができ		
		4週	モータ角度のPID制	引御 (1):ON/OFF	, P, P-D制御	2 4 5 6	PID制御の各野 ブロック線図	ulinkの使用方法 要素の役割を説明 を用いて制御系 持性・定常特性に	月できる。	
		5週	モータ角度のPID制	川御 (1) : PI-D, I-F	PD制御	2 4 5 6	PID制御の各野 ブロック線図	ulinkの使用方法 要素の役割を説明 を用いて制御系 持性・定常特性に	用できる。	
		6週	モータ角度のPID制 リング	川御 (2) ―モデル^	ベース設計:モデ	2 4 5 6	PID制御の各野 ブロック線図を 制御系の過渡		月できる。 を表現できる。 こついて説明できる	
								デリングを行う。		
前期		7週	モータ角度のPID制 トローラ設計	川御 (2) ―モデル^	ベース設計:コン	2 4 5 6	PID制御の各野 ブロック線図を 制御系の過渡		月できる。 を表現できる。 こついて説明できる	
							7 システムのモデリングを行うことができる。			
		8週	回転型倒立振子の ⁻ したパラメータ同2	Eデリング:2次遅 <u>E</u>	れ系の特性に注目	2 7		ulinkの使用方法 デリングを行う。		
		9週	回転型倒立振子の ³ メータ同定	Eデリング:最小二	エ乗法によるパラ 	2 7		ulinkの使用方法 デリングを行う。		
		10週	回転型倒立振子/クラの設計モデル	クレーンの状態方程	全式:コントロー	7	システムのモ	デリングを行う	ことができる。	
		11週	状態フィードバック	クによるレギュレ-	-夕制御	6	制御系の過渡	特性・定常特性(こついて説明できる	
	2ndQ	12週	回転型クレーンの	犬態フィードバック	7制御:極配置法	2 8	極配置法により	ulinkの使用方法 クコントローラ	を設計できる。	
		13週	四年日上版 の小窓フィー・バック			2 MATLAB/Simulinkの使用方法を理解する。 8 極配置法によりコントローラを設計できる。 2 MATLAB/Simulinkの使用方法を理解する。 9 最適レギュレータによりコントローラ設計できる。				
		14週								
		15週	まとめ			Ť				
		16週	600							
モデルー	アカリ:			 *目標						
 分類		分野	学習内容	学習内容の到達目	 標			到達	レベル 授業週	
評価割合	 }	1,	1					1-3/-	,	
- 1 100 11 3 1-		 :験	発表	相互評価	態度	ポ	ニートフォリオ	その他	合計	
総合評価害			0	0	0	3(0	100	
基礎的能力			0	0	0	0	-	0	0	
専門的能力			0	0	0	30)	0	100	
分野横断的			0	0	0	0		0	0	